

広報 第10地区コミュニティ

第7号

コロナ禍におけるコミュニティ活動状況の報告

第10地区コミュニティ 会長 印出 久男

春も近いと思わせるような季節になりましたが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

世界中に新型コロナの感染が拡大して、様々な行動が制限され、今まで経験のない体験をしました。皆様も日々感染防止に努めながら行動されていたのではないかと推察いたします。

そのような中、第10地区コミュニティの活動も、令和2年度及び令和3年度は全ての活動を取りやめました。そして令和元年度、2年度、3年度の総会は、古河市の指導による書面決議（役員が総会の各議案に賛成か反対かを書面で意思表示する）の方法によって執り行いました。

令和4年度になり、ようやく社会経済活動を再開する機運も生まれましたので、コミュニティ活動も感染防止に留意しながら再開することを決定し、12月に「ワイワイソフトボール大会」と「防災講座」を開催しました。

第10地区コミュニティは、今後も地域の潤滑剤となるべく活動してまいりますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

令和4年度 第10地区コミュニティ役員

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
会長	印出 久男	事業部会長	前澤 博英	監事	森田 昭二
副会長	古池 貞雄	防災安全部会長	矢野 靖彦		三田 行男
会計	宮本眞佐美	健康福祉部会長	小野里昌子		
事務局長	井上 邦次	広報部会長	小林 正美		

ワイワイソフトボール大会開催！！

昨年12月4日、中央運動公園自由広場で、やわらかめのボールを使用し、スローピッチ（山なりの投球）で行う「ワイワイソフトボール大会」を3年振りに開催しました。

晴天無風のグラウンドで試合は白熱し、応援と歓声が飛び交いました。6チームが参加し、ホームランや好プレーに賞品が贈られましたが、「来年は珍プレー賞も欲しいなあ」という声もありました。

試合の合い間には応援の女性達から豚汁とコーヒーが提供され、大会の盛り上がりの後押ししていただきました。

来年の大会開催に向け、コロナ禍が終息して平常の生活に早く戻れることを参加者全員で祈り終了しました。



夫婦でホームラン



豚汁とコーヒーの提供

◇ ワイワイソフトボールを計画・実行したのは、井上陽久さん、青木哲生さん、大塚忍さん、大川原公雄さん、小野里昌子（健康福祉部会長）さんでした。



参加者の皆さん

令和元年度決算報告

科 目	予算額	決算額	増減額	摘 要
前年度繰越金	654,675 円	654,675 円	0 円	
運営助成金	100,000 円	100,000 円	0 円	古河市より
事業助成金	380,000 円	247,000 円	△ 133,000 円	勝鹿祭事業 0 円 自主防災事業 147,000 円 健康づくり事業 40,000 円 広報紙発行事業 60,000 円
負担金	110,000 円	110,000 円	0 円	10 地区より助成
会 費	1,000 円	0 円	△ 1,000 円	
雑 入	30,325 円	53,006 円	22,681 円	参加費収入・広告料・利子
収入合計	1,276,000 円	1,164,681 円	△ 111,319 円	
科 目	予算額	決算額	増減額	摘 要
会 議 費	40,000 円	7,190 円	△ 32,810 円	総会
事業費	630,000 円	417,370 円	△ 212,630 円	勝鹿祭事業 0 円 自主防災事業 227,897 円 健康づくり事業 69,473 円 広報紙発行事業 120,000 円
事務費	40,000 円	0 円	△ 40,000 円	
負担金	30,000 円	10,000 円	△ 20,000 円	古河市コミュニティ推進協議会
予備費	536,000 円	0 円	△ 536,000 円	
支出合計	1,276,000 円	434,560 円	△ 841,440 円	

※収入合計 1,164,681 円－支出合計 434,560 円＝残金 730,121 円（令和2年度へ繰越）

令和2年度決算報告

科 目	予算額	決算額	増減額	摘 要
前年度繰越金	730,121 円	730,121 円	0 円	
運営助成金	120,000 円	120,000 円	0 円	古河市より
事業助成金	380,000 円	0 円	△ 380,000 円	イベント事業 0 円 自主防災事業 0 円 健康づくり事業 0 円 広報紙発行事業 0 円
負担金	20,000 円	0 円	△ 20,000 円	
会 費	0 円	0 円	0 円	
雑 入	10,879 円	7 円	△ 10,872 円	利子
収入合計	1,261,000 円	850,128 円	△ 410,872 円	
科 目	予算額	決算額	増減額	摘 要
会 議 費	30,000 円	2,684 円	△ 27,316 円	
事業費	630,000 円	0 円	△ 630,000 円	イベント事業 0 円 自主防災事業 0 円 健康づくり事業 0 円 広報紙発行事業 0 円
事務費	30,000 円	0 円	△ 30,000 円	
負担金	30,000 円	0 円	△ 30,000 円	
予備費	541,000 円	0 円	△ 541,000 円	
支出合計	1,261,000 円	2,684 円	△ 1,258,316 円	

※収入合計 850,128 円－支出合計 2,684 円＝残金 847,444 円（令和3年度へ繰越）

令和3年度決算報告

科 目	予算額	決算額	増減額	摘 要
前年度繰越金	847,444 円	847,444 円	0 円	
運営助成金	120,000 円	120,000 円	0 円	古河市より
事業助成金	360,000 円	0 円	△ 360,000 円	イベント事業 0 円 自主防災事業 0 円 健康づくり事業 0 円 広報紙発行事業 0 円
負担金	20,000 円	0 円	△ 20,000 円	
会 費	0 円	0 円	0 円	
雑 入	1,556 円	0 円	△ 1,556 円	
収入合計	1,349,000 円	967,444 円	△ 381,556 円	
科 目	予算額	決算額	増減額	摘 要
会 議 費	40,000 円	2,880 円	△ 37,120 円	
事業費	600,000 円	0 円	△ 600,000 円	イベント事業 0 円 自主防災事業 0 円 健康づくり事業 0 円 広報紙発行事業 0 円
事務費	30,000 円	0 円	△ 30,000 円	
負担金	30,000 円	0 円	△ 30,000 円	
予備費	649,000 円	0 円	△ 649,000 円	
支出合計	1,349,000 円	2,880 円	△ 1,346,120 円	

※収入合計 967,444 円－支出合計 2,880 円＝残金 964,564 円（令和4年度へ繰越）

「自助を学び災害を乗り越ろう」

令和4年12月18日（日）9時30分より、女沼公民館において第10地区コミュニティ主催の防災講座を開催しました。

総和中学校の生徒さんや女沼老人会の皆さん、その他地区内の方、約60名が参加されました。

“自助を学び災害を乗り越ろう”という演題のもとに、群馬大学名誉教授の片田敏孝氏のDVDを拝聴して、自分の力で災害を乗り越えていく自助の必要性。今できることをやって懸命に備える備蓄管理。外出時には落ち着いてラジオを聞くなどの災害情報の取得方法。ワークショップでは様々な立場の人のための避難グッズ選びを体験しました。

激甚化する自然災害、特に最近活発になっている関東地方の地震を地域のコミュニティで乗り越えていくために皆で学び考える貴重な機会となりました。

「今日の経験を糧として、自主的に訓練していただけることを願っています」と第10地区コミュニティ防災部会長の矢野（防災士）さんも話していました。

◇ 防災講座を計画・実行したのは、矢野靖彦（防災安全部会長）さん、波江野博さん、平石誠さん、青木三千代さん、小野里昌子さん、前澤博人さん、高井和之さん及び茨城県防災士会の皆さんでした。



片田教授のDVD視聴



スマホを使った災害情報の取得



ワークショップ避難グッズ選定



ワークショップ避難グッズ選定の発表

県民大学講座への参加

令和4年6月から9月に掛けて、茨城県県西生涯学習センター（筑西市）において、茨城県民大学講座「すぐに役立つ！防災講座」が5回開催され、第10地区コミュニティから4名が参加しました。

大きな自然災害が想定される昨今、自分の命を自ら守り準備することは出来ないのか。災害を減らす対策を日常どのように考えるのか。それらのカギは何かなどの講座を通して学びました。

講座内容は、

- 1) 命を守る行動の基本は何か？
- 2) 防災グッズを自分で作ってみよう
- 3) シミュレーションゲームから防災を知ろう
- 4) 防災食について
- 5) 台風への備えと支援とボランティア活動を知ろう

の5講座で、ボランティアの高校生の参加もあり、熱心な受講姿勢と活発な質疑に参加者の皆さんから大きな拍手が沸き起こっていました。



シミュレーションゲーム



防災食の講義

地下神殿のような調圧水槽を見学

令和2年2月29日。新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中、春日部市にある首都圏外郭放水路事業の調圧水槽を見学しました。

首都圏外郭放水路事業は、埼玉県東部の中小河川の洪水を地下に取り込み、地底50mを貫く総延長6.3kmのトンネルを通して江戸川に放流する地下放水路で、およそ13年の歳月をかけて平成18年6月に通水が可能になりました。

トンネルは国道16号の地下に建設され、中小の河川が溢れそうになったとき、「立坑」と呼ばれる直径30mの5つの縦穴から水を取り込み、トンネルを通じて「調圧水槽」と呼ばれる幅78m、奥行き177m、高さ18mの巨大空間に流れ込み、ポンプで江戸川に排水されるという世界最大級の施設です。

調圧水槽は、まるで「地下神殿」の様相を呈しており、重さ500トンのコンクリートの柱が59本で空間を支えています。令和元年の台風19号では、施設の能力を如何なく発揮し、東京ドーム10杯分の水を排水したそうです。



参加者の皆さん



調圧水槽内部

水害が多発する日本において、このような施設は目立たないが、しっかりと私たちを守ってくれるということを改めて実感しました。

この事業をもって令和4年12月までコミュニティ活動は中断しました。

◇ 首都圏外郭放水路事業の見学を計画・実行したのは、矢野靖彦（防災安全部会長、防災士）さんでした。



外郭放水路の全体図

この部分には地元協力者の公告が掲載されています。

編集後記

梅のつぼみもふくらみはじめました。コロナ禍で休刊せざるを得なかった第10地区コミュニティ広報紙を、ようやく届けることができ、部会員一同ほっとしております。これからも地域のニュースを伝えていきますので、情報の提供をお願いします。

◇第10地区コミュニティ発足から副会長としてご尽力いただきました、中辺見行政区の小口進さんが令和4年1月に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◇第10地区コミュニティ広報紙第7号を担当したのは、小林正美（広報部会長）、向原勝子、船橋正美でした。